

参考資料

これまでに公表した空港別の収支について  
～平成19年4月 航空分科会資料より抜粋～

---

・空整特会のH17年度歳入歳出決定計算書をもとに、キャッシュフローベースでの羽田空港の個別収支を試算。  
 ・空港別で把握できる歳入・歳出項目をもとに試算しているが、人件費等が計上されている空港等維持運営費等の歳出項目が現時点で空港別への区分ができていない状況（特会合計で1,266億円）。

## 平成17年度 羽田空港 個別収支

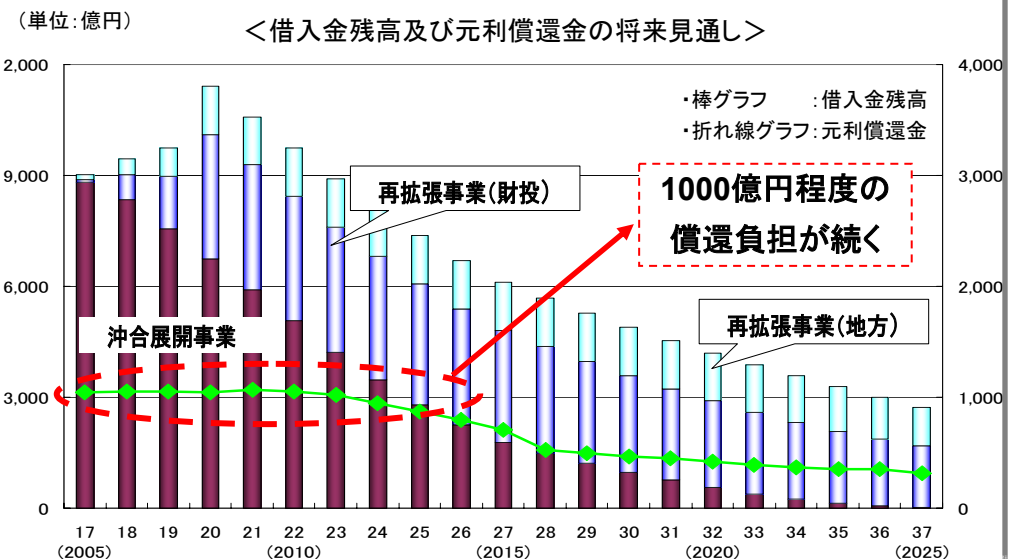
主な歳入 982億円		主な歳出 1,299億円	
(主な項目)		(主な項目)	
着陸料等収入	370億円	空港整備事業費	209億円
土地建物		環境対策費	1億円
貸付料収入	114億円	債務の元利償還	1,049億円
借入金	498億円	土地建物借料	0.1億円
		国有資産所在 市町村交付金	40億円

区分できていない歳出項目  
 特会全体で1,266億円  
 (維持運営費、工事諸費)

※単位未満:四捨五入

## 羽田空港の個別収支における留意点

・羽田空港は、沖合展開事業と再拡張事業にかかる財投借入等として、H17年度末で既に9,016億円の借入金残高がある。  
 ・また、今後再拡張事業について約4,000億円程度の新たな借入が必要であることから、**当面は約1,000億円程度の債務の元利償還負担が発生し、羽田空港の自己収入（着陸料・貸付料）だけでは、これらの元利償還金を賄うことは不可能。**



- ・空整特会のH17年度歳入歳出決定計算書をもとに、キャッシュフローベースでの伊丹空港の個別収支を試算。
- ・空港別で把握できる歳入・歳出項目をもとに試算しているが、人件費等が計上されている空港等維持運営費等の歳出項目が現時点で空港別への区分ができていない状況（特会合計で1,266億円）。

## 平成17年度 伊丹空港 個別収支

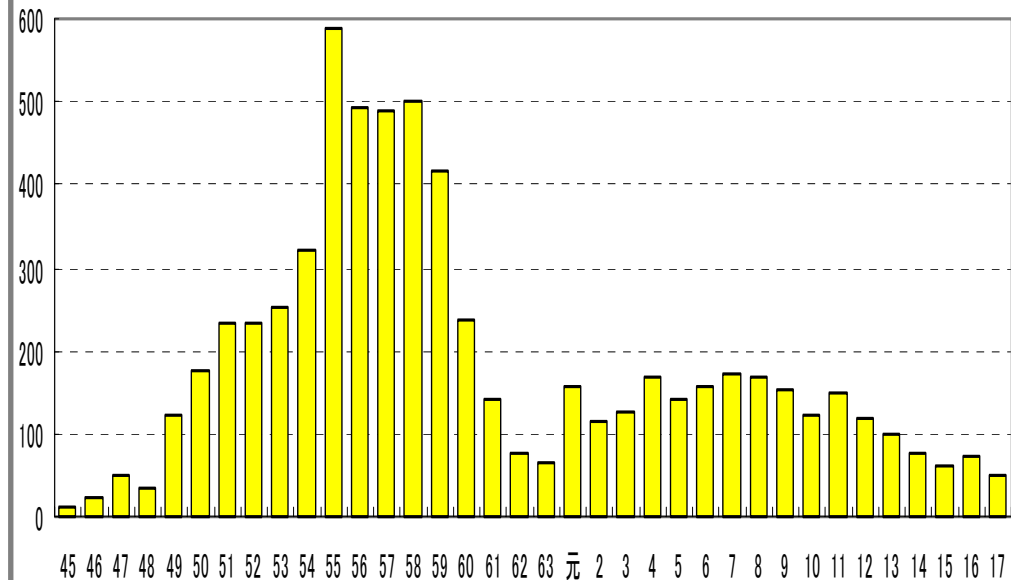
主な歳入 157億円	主な歳出 94億円
(主な項目)	(主な項目)
着陸料等収入 140億円 (うち特別着陸料収入 16億円) (※)	空港整備事業費 37億円
土地建物等 貸付料収入 17億円	環境対策費 50億円
(※) 特別着陸料は平成17年10月より徴収が開始されているため、本収支表にはそれ以降の歳入のみが含まれている。	土地建物借料 0.1億円
	国有資産所在 市町村交付金 7億円
	区分できていない歳出項目 特会全体で1,266億円 (維持運営費、工事諸費)

※単位未満:四捨五入

## 伊丹空港の個別収支における留意点

- ・伊丹空港は、昭和40年代以降環境対策費の累計として6,600億円程度の費用を計上しており、ピーク時には約600億円程度に達していたことから、時系列で見た場合、その収支状況には大きな変動があると思われる。

(単位:億円) <昭和40年代からの環境対策費の推移>



- ・空整特会のH17年度歳入歳出決定計算書をもとに、キャッシュフローベースでの新千歳、仙台空港の個別収支を試算。
- ・空港別で把握できる歳入・歳出項目をもとに試算しているが、人件費等が計上されている空港等維持運営費等の歳出項目が現時点で空港別への区分ができていない状況（特会合計で1,266億円）。

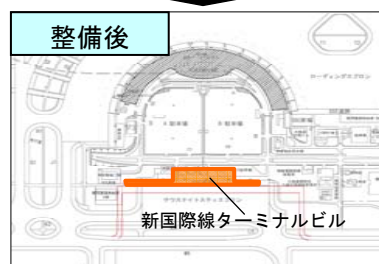
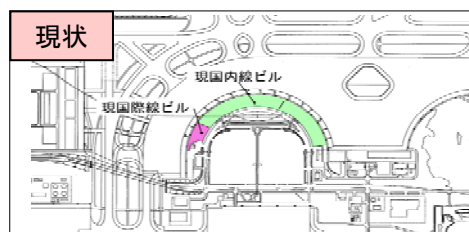
## 平成17年度 新千歳空港 個別収支

・新千歳空港は、空港整備事業費等の歳出を上回る着陸料等収入を計上しているが、**今後は国際旅客ターミナルの整備を控えており、19年度以降空港整備事業費が増えていくことに留意する必要がある。**

主な歳入		主な歳出	
96億円		29億円	
(主な項目)		(主な項目)	
着陸料等収入	86億円	空港整備事業費	27億円
土地建物等		環境対策費	0億円
貸付料収入	6億円	土地建物借料	0億円
地方負担金収入	3億円	国有資産所在市町村交付金	2億円
		区分できていない歳出項目 特会全体で1,266億円 (維持運営費、工事諸費)	

### 【国際旅客ターミナルの整備】

- スケジュール
  - 平成18年度 ターミナル基本計画等
  - 平成19~21年度中 国際線ターミナル工事
  - 平成21年度中 供用



## 平成17年度 仙台空港 個別収支

・仙台空港は、空港等維持運営費等を加味しなくとも、既に歳出が歳入を上回っている。

主な歳入		主な歳出	
18億円		19億円	
(主な項目)		(主な項目)	
着陸料等収入	15億円	空港整備事業費	17億円
土地建物等		環境対策費	0.3億円
貸付料収入	2億円	土地建物借料	0.1億円
地方負担金収入	1億円	国有資産所在市町村交付金	1億円
		区分できていない歳出項目 特会全体で1,266億円 (維持運営費、工事諸費)	

※単位未満:四捨五入

# 平成19年4月 第8回航空分科会資料 関係部分抜粋④

- ・空整特会のH17年度歳入歳出決定計算書をもとに、キャッシュフローベースでの新潟、広島、高知空港の個別収支を試算。
- ・空港別で把握できる歳入・歳出項目をもとに試算しているが、人件費等が計上されている空港等維持運営費等の歳出項目が現時点で空港別への区分ができていない状況（特会合計で1,266億円）。
- ・新潟、広島、高知空港は、空港等維持運営費等を加味しなくとも、既に歳出が歳入を上回っている。

平成17年度 新潟空港 個別収支		平成17年度 広島空港 個別収支		平成17年度 高知空港 個別収支	
<b>主な歳入</b> 11億円	<b>主な歳出</b> 14億円	<b>主な歳入</b> 26億円	<b>主な歳出</b> 32億円	<b>主な歳入</b> 7億円	<b>主な歳出</b> 14億円
(主な項目)	(主な項目)	(主な項目)	(主な項目)	(主な項目)	(主な項目)
着陸料等収入 6億円	空港整備事業費 10億円	着陸料等収入 16億円	空港整備事業費 31億円	着陸料等収入 5億円	空港整備事業費 12億円
土地建物等 貸付料収入 1億円	環境対策費 1億円	土地建物等 貸付料収入 1億円	環境対策費 0億円	土地建物等 貸付料収入 1億円	環境対策費 1億円
受託工事 納付金収入 2億円	受託工事費 2億円	地方負担金収入 9億円	土地建物借料 0.1億円	地方負担金収入 1億円	土地建物借料 0億円
地方負担金収入 3億円	土地建物借料 0.1億円		国有資産所在 市町村交付金 1億円		国有資産所在 市町村交付金 1億円
	国有資産所在 市町村交付金 2億円				
	区分できていない歳出項目 特会全体で1,266億円 (維持運営費、工事諸費)		区分できていない歳出項目 特会全体で1,266億円 (維持運営費、工事諸費)		区分できていない歳出項目 特会全体で1,266億円 (維持運営費、工事諸費等)

- ・空整特会のH17年度歳入歳出決定計算書をもとに、キャッシュフローベースでの福岡、那覇空港の個別収支を試算。
- ・空港別で把握できる歳入・歳出項目をもとに試算しているが、人件費等が計上されている空港等維持運営費等の歳出項目が現時点で空港別への区分ができていない状況（特会合計で1,266億円）。

## 平成17年度 福岡空港 個別収支

・福岡空港は、**環境対策費及び土地建物借料の負担が重い**ことから、空港等維持運営費等を加味しなくとも、既に歳出が歳入を上回っている。

主な歳入 125億円		主な歳出 221億円	
(主な項目)		(主な項目)	
着陸料等収入	88億円	空港整備事業費	39億円
土地建物等貸付料収入	24億円	環境対策費	92億円
地方負担金収入	13億円	土地建物借料	84億円
		国有資産所在市町村交付金	6億円
		区分できていない歳出項目 特会全体で1,266億円 (維持運営費、工事諸費)	

## 平成17年度 那覇空港 個別収支

・那覇空港は、**着陸料軽減の特例措置により着陸料等収入が少ない**上、**土地建物借料の負担が重い**ことから、空港等維持運営費等を加味しなくとも、既に歳出が歳入を上回っている。

主な歳入 36億円		主な歳出 67億円	
(主な項目)		(主な項目)	
着陸料等収入	21億円	空港整備事業費	25億円
土地建物等貸付料収入	14億円	環境対策費	0.2億円
地方負担金収入	1億円	土地建物借料	39億円
		国有資産所在市町村交付金	3億円
		区分できていない歳出項目 特会全体で1,266億円 (維持運営費、工事諸費)	

### 【福岡及び那覇空港の個別収支における留意点】

※単位未満:四捨五入

- ・前回の交通政策審議会航空分科会の最終答申（平成14年12月6日）をふまえ、平成15年度より両空港に関する総合的調査に着手し、現在2段階目のP1（ステップ2）を行ったところ。**今後は、調査結果を踏まえた対応が必要となる可能性がある。**